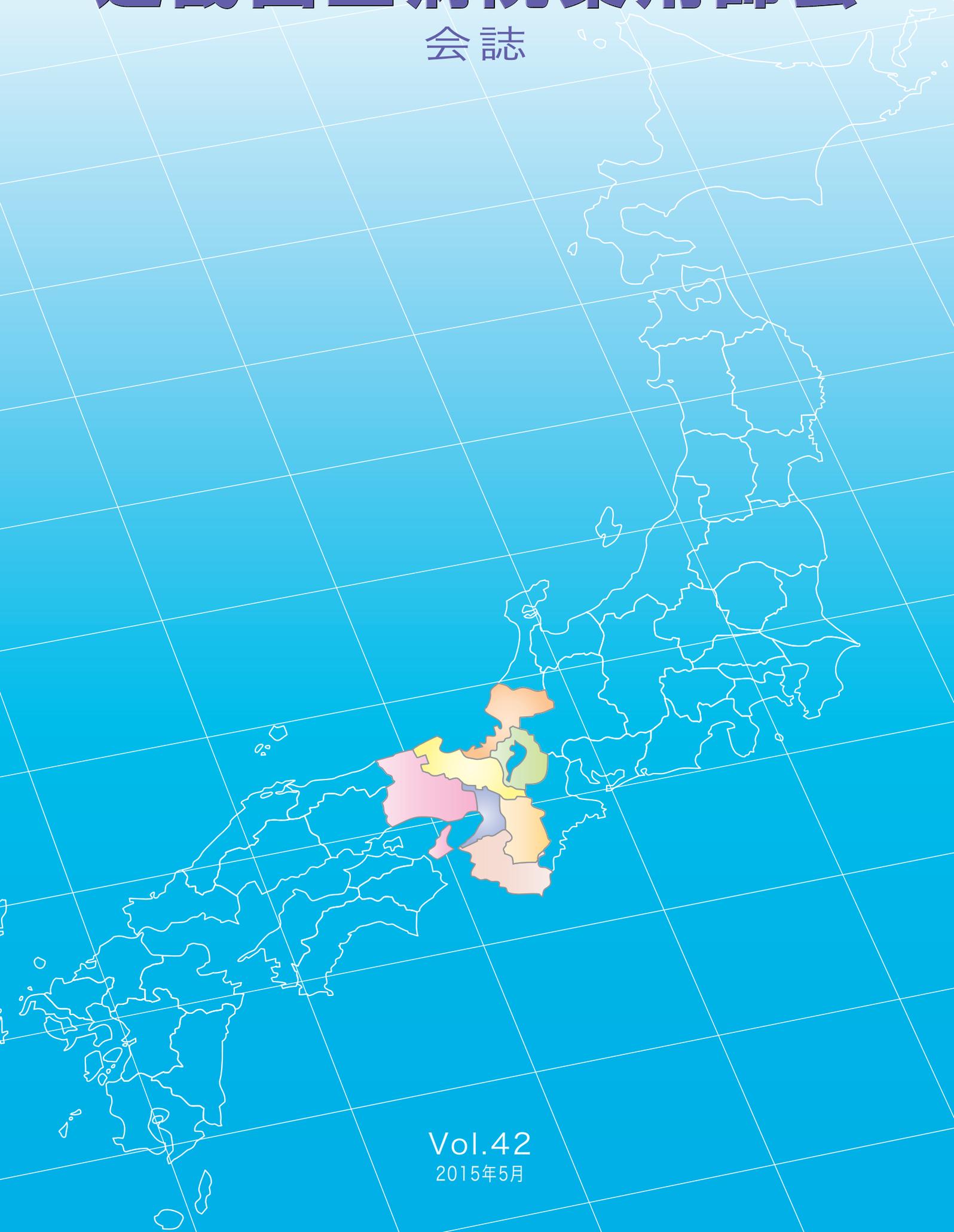


近畿国立病院薬剤師会

会誌



Vol.42
2015年5月

目 次

提言－以和為貴（和をもって貴しとなす）－	2
和歌山病院 政道 修二	
薬剤部紹介.....	3
南和歌山医療センター 別府 博仁	
平成 27 年度近畿国立病院薬剤師会学術集会報告.....	6
大阪医療センター 富島 公介	
平成 27 年度近畿国立病院薬剤師会学術集会特別講演会報告.....	8
敦賀医療センター 杉山 喜久	
平成 27 年度近畿国立病院薬剤師会教育研修委員会主催 第 2 回実務実習生合同成果発表会報告.....	9
宇多野病院 鈴木 晴久	
「平成 27 年度 新採用者コメディカル部門研修会」に参加して.....	11
大阪医療センター 萬浪 綾乃	
「日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2015」に参加して.....	13
近畿中央胸部疾患センター 小川 智子	
「第 36 回日本病院薬剤師会近畿学術大会」に参加して.....	14
大阪南医療センター 川上 智久	
趣味のページ～go for a walk～.....	15
紫香楽病院 内海 真和	
編集後記.....	16

提言 一 以和為貴（和をもって貴しとなす）一

和歌山病院 政道 修二

昨年秋の高輝度青色 LED の発明、量産化に関するノーベル物理学賞の受賞については、まだ記憶に新しい。1960 年代の赤色 LED 発明の後、数十年を経てようやく高輝度の純青色 LED が発明され、その技術を応用し純緑色 LED が登場、ようやく光の三原色が揃い、これにより白色の LED 光源が利用できるようになったという。三原色 LED の量産化により照明用の LED は安価に手に入るようになり、またディスプレイの RGB 光源にと様々な分野で応用されてきている。

それぞれの色も単色での用途は多様で多々あると思われるが、単に照明用の光源とすれば、単独ではどれ一つをとっても優れた光源とは言いがたい。赤色は目にはつきやすく注意は引くけれども、いかにも偽物っぽい。緑色は微細な形態や文様を判別するにはいかにも暗い。また青色にしても同様、物の色、形を判別することはかなわない。しかし三原色が重なった白色光は周囲を明るく照らし、物の分別、状況の判断も可能になる。

三原色の持つイメージを人の性格、能力などに例えると、情熱的であつく、熱心で少々荒々しくもある赤。周りに安らぎ安心感を与え、信頼と調和を想起させる緑。青は冷静沈着、鋭い思考の秀才肌で冷徹なまでの厳しさと言ったイメージが重なる。自分の周りの人もこれらの色に分けることも可能であるし、またいくつかの色が様々な輝度で混ざりあった人物もいることと思う。しかし、三原色をバランスよく兼ね備え、しかも強烈な白色光のような人物はそうそうお目にかかれるものではない。すべての人が白色光の如く万物を備えている訳ではないが、様々な色のタイプの間が集まり、調和し協調し合えば強烈な白色光の如く、光り輝くものになると思う。人それぞれ、利点、欠点があり、持つ能力は様々であるが故に一人ではできることに限界があることも多い。しかし、他と協調し合えば一人では成し得なかったことも成就する。

私は、事あるごとに「和」を大切にしてほしいと話している。

『和を以(も)って貴(とうと)しとなし、忤(さから)うこと無きを宗(むね)とせよ。』

ご存じ七十七条憲法第一条であるが、この引用元となったと云われる論語の一説を紹介し、この稿の結びとする。

『礼の用は和を貴しと為す。先王の道も斯れを美と為す、小大これに由るも行なわれざる所あり。和を知りて和すれども礼を以てこれを節せざれば、亦行なわるべからず。』

「礼」の働きとして「調和」があります。昔の王も調和をもって国を治めることに長けていました。しかし大事も小事も調和だけに則って行おうとすれば、なかなかうまくいかないものです。調和調和と言うのではなく、「礼」を用いて調和をはかるようにした方がいいでしょう。(その結果、調和はついてきます)

(マナペディアより引用)

薬 剤 部 紹 介



南和歌山医療センター

【病院概要】

南和歌山医療センターは、紀伊半島南部の田辺市に位置しており、近隣の町には関西の皆様にも温泉街や南紀白浜アドベンチャーワールド等で馴染みの深い白浜町、さらには本州最南端の潮岬からもそう遠くはありません。この6月には、薬剤師の集いが開催されますが、参加される多くの先生にもその美しい自然を感じていただきたいと、当院スタッフも楽しみにしております。



当院は、平成4年に国立田辺病院と国立白浜温泉病院の統合により国立南和歌山病院として誕生しました。田辺病院は、昭和20年に国立大阪病院白浜分院として旧厚生省管轄下にて開院され昭和26年に田辺市に移転後、統合整備を重ねて病床数210床の総合病院として地域医療を支えてきました。一方、白浜温泉病院は昭和20年に国立白浜温泉療養所として旧厚生省によって開設、昭和25年に国立白浜温泉病院に名称変更され慢性関節リウマチを中心とした療養型病院として機能してきました。国立南和歌山病院は、白浜に車で行かれた方々は目にされたこともあるかと思いますが、田辺から白浜に向かう途中の丘の上に建設されました。その後、平成16年の国立病院の独立行政法人化に伴い、南和歌山医療センターと名称変更され現在に至ります。

当センターの基本理念である「思いやりのある医療を実践します」に基づき、保有する資源および機能を活用し地域医療機関との連携の下、医療を提供しています。標榜診療科は23診療科、病床数316床（一般6病棟・280床、救命救急病棟22床、緩和ケア病棟14床）を有し、国が定める政策医療・4疾患5事業のうち「がん」「循環器」「成育」の診療機能充実のため関連診療科の体制整備を図ると共に、臨床研究部を中心に新しい診断技術の臨床応用を目指しております。

特に、救急医療に関しては、紀南地区の3次救急輪番制を担当し、救急車で搬送のみならず、ドクターカーでの出動やドクターヘリの受け入れ等、断らない救急を実践しています。また、教育に関しては医学部・薬学部・看護学部(学校)をはじめ、コメディカルの学生の卒前研修や救急救命士研修などの積極的な受け入れを行っており、薬剤部員も看護学校の講師等にて活躍しております。

【薬剤部概要】

薬剤部は薬剤部長、副薬剤部長、主任 4 名（薬務主任、調剤主任、治験主任、医薬品情報管理主任）、薬剤師 11 名、薬剤助手 2 名の 19 名で構成されています。当センターは平成 25 年 7 月より一般病棟 6 病棟に専任薬剤師を配置し、全フロアでの薬剤師常駐体制をとり、病棟薬剤業務実施加算の算定を開始しました。その他、チーム医療として ICT、NST、PCT のみならず、救命救急科、外科、



脳神経外科、内科等のカンファレンスや回診、外来化学療法を実施されている患者への介入にも積極的に参加し、チーム医療における薬物療法の質の向上と安全性の担保に貢献しています。当院の病棟業務の特色は、医療スタッフ（多職種）間の関係は密で、コミュニケーションが取りやすいことです。このため、チーム医療の実施にあたってスムーズで、積極的にリハビリカンファレンスやソーシャルワーカーを含む退院時カンファレンスなどへの参加や、地域連携の強化も行っています。また、紀南地域の広域医療圏での在宅訪問診療も行っており、在宅医療支援センターの設立予定もあります。



勤務時間外も、職種を問わず各部署の様々な面々が集まり、会合が頻回に開催されています。地域柄単身者も多く、太平洋の新鮮な魚など豊富な食材にも恵まれているためこういった会合も開催しやすい環境です。

今年度は、6月1日より電子カルテシステムが導入されます。現在はオーダーリングシステムがNEC、薬剤部門システムがトーショーのシステムを採用しておりますが、電子カルテへの切り替えに伴い、電子カルテが富士通、薬剤部門システムがユヤマに変更になります。これに伴い、患者さんの同意のもとで外来院外処方せんに肝機能・腎機能等の13項目の検査値を掲載することになりました。検査値情報を保険薬局に情報提供することで、用法用量の妥当性や有害事象の予防・早期発見につながり、患者さんがより安心して薬を服用していただけるようになります。これは、全国の一部の大学病院等で実施されている施設はありますが、近畿の国立病院機構の施設では初めての試みであるためしっかりと形で実施すべく準備に取り組んでおります。

また、注射調剤の際のアンプルピッカー導入も予定しています。現在、病棟業務に多くのマンパワーが必要である現状ながら、注射薬の一施用交付（一部対象外処方あり）を手作業で実施しているため、調剤業務に多くの時間がかかっています。アンプルピッカーの導入により業務の効率化を図り、なお一層病棟業務の充実に取り組んでいきたいと考えております。

【最後に】

今年度より薬剤部へと名称が変更になりました。この記念すべきタイミングで当院の紹介ができる機会をいただけたことを、スタッフ一同とても光栄に思います。『薬剤部』の名称に恥じないように業務を遂行し、さらには薬剤師会の益々の発展のために貢献できるよう努めてまいりたいと考えております。

（文責 :別府 博仁）



平成 27 年度近畿国立病院薬剤師会学術集会報告

大阪医療センター 富島 公介

平成27年3月7日（土）、梅田スカイビル スペース36Lにて教育研修委員会主催の学術集会ならびに講演会が、会員148名参加のもと開催された。

演題は「調剤・処方監査」「服薬指導・薬歴管理」「TDM・投与設計」「治験・市販後調査」「薬物療法」「医薬品適正使用」「薬物相互作用・有害反応」「地域医療・在宅医療」「その他」の9領域から14演題が採択された。

それぞれの領域での発表を4人の座長がとりまとめ、進行した。発表演題の中から最優秀賞1題、優秀賞2題が選ばれ受賞者には記念品が贈呈された。また学術集会での発表見本として、そして今後の学術集会の発展をという期待をこめて特別賞が授与された。

特別賞を受賞した大阪医療センターの榎原克也主任薬剤師の受賞時のコメントで「この場で自分の考え方や視点、展望を皆様と共有できたことに大きな意味があると考えています。」とあった。

まさに本学術集会では色々な分野からの発表があり、演者の薬剤師経験年数も様々であった。薬剤師の専門化が進み専門の学会やセッションで発表、聴講を行う機会は増えているが本学術集会のように自分がいま学んでいる領域とは違う領域の発表を聴き、考えることができる機会を大切にしたいという思いからの一言だったと感じた。

本学術集会がこれから病院薬剤師として医療に貢献すべく研究、調査、取組を行っていきたいと考える薬剤師に自らが挑戦する機会として、また先輩薬剤師の姿を学ぶ大きな刺激となったことを期待したい。



学術集会演題（受賞演題：◎最優秀賞、○優秀賞、☆特別賞）

1. 総合病院におけるクロザリル運用と適正使用への薬剤師の関与
舞鶴医療センター 黒川 拓也
2. ◎ワルファリン服用患者に対する簡便なPT-INRモニタリングと薬学的介入に関する研究
国立循環器病研究センター 池上 洋平
3. 薬剤科と臨床研究推進室の協同による治験薬管理体制の改善に向けた取り組み
大阪医療センター 松尾 友香
4. ○薬剤師主導で行う臨床研究における新倫理指針への対応
ー前後比較オープン試験の例ー
宇多野病院 越智 香保
5. 当院での簡易懸濁法の導入とその後の現状
大阪南医療センター 西澤 有紀
6. 当院における持参薬鑑別の実態と展望
神戸医療センター 松井 尚美
7. 当院の病棟薬剤業務の過去・現在・未来
南和歌山医療センター 辰己 晃造
8. 白内障患者に対する退院時集団指導の取り組み
京都医療センター 宮地 由香里
9. 低アルブミン血症を有するてんかん患者に関与した一例
南和歌山医療センター 菊池 貴大
10. バンコマイシン投与量マニュアル導入による至適濃度域達成率の変化
大阪医療センター 坂倉 広大
11. 奈良医療センターの地域活動に対する薬剤師の取り組み
奈良医療センター 中澤 誉
12. ☆胃癌術後S-1補助化学療法における治療継続と腎機能に基づく用量設定の検討
大阪医療センター 槇原 克也
13. ○姫路医療センター呼吸器内科における免疫抑制患者へのPCP予防投与を目的としたST合剤の使用調査
姫路医療センター 中西 剛志
14. ダクラタスビル塩酸塩及びアスナプレビル投与患者に対する薬物相互作用チェックの取り組み
京都医療センター 喜田 孝史

平成 27 年度 近畿国立病院薬剤師学術集会 特別講演会報告

敦賀医療センター 杉山 喜久

演題：薬剤師が臨床推論から学べること

日時：平成 27 年 3 月 7 日（土）15：30～16：55

場所：梅田スカイビル スペース 36L

講師：東京薬科大学 医療実務薬学教室 川口 崇 先生

病棟薬剤業務加算が実施されて 3 年が経過しようとしている。薬剤の専門である薬剤師は、チーム医療において薬物療法に対し主体的に参加し薬物治療の有効性、安全性の向上を図らなければならない。今回の講演は病院薬剤師が患者の薬物療法をよりよいものにするために必要な考え方、プロセスについて教えていただいた。このことは、病棟薬剤業務をさらにステップアップしなければならないと考えさせられる内容であった。

まず新人薬剤師の教育はどのようにしていけばよいのか？医師の新人教育はチームで行っており、わからなければコンサルトできる環境がある。看護師はプリセプターシップで新人を病棟で徹底的に教育している。薬剤師は、薬学的臨床推論で臨床上の思考過程を論理的に言語化することにより薬剤師教育につなげていく。ではどのような方法で行っていくのか？

薬剤師のカルテの見方は、診断→診察→発症という後ろ向きで見ている、発症→診察→診断と向きを変えてみる必要があること。さらに、カルテの機械化はどんどん進んでいくが人と人との関係は変わらない。このことが重要で、患者の評価のために十分時間を費やし、患者から視点、考えを聞き出す。患者からの情報を引き出すことが必要。患者と話しをするときは医学的にちゃんと聞く、根拠をもって聞く、そして患者さんの病歴を取る、収集した病歴の意味を深く考える。考えるには解剖生理、基礎医学、基礎薬学が必要、そして他のチームメンバーと解釈が間違っていないか話し合う。そこから副作用の早期発見につなげていく。さらに、患者の精神面を配慮し、レジメン等を患者と共有して両方向性に情報交換することで、患者満足度も上がり医療ミスの苦情の減少にもつながる。薬剤師も臨床推論を経験していくことで医師や他職種とのコミュニケーションをとりながら円滑に病棟薬剤業務を行っていくことが必要といった内容であった。

日々の患者面談、指導、カルテの記録から患者にとって本当に必要なことを医師、医療スタッフに伝えられるかということが大切であることを認識した。

「学ぶには聞く、見る→考える→他のチームメンバーと話す」、これらを常に考えながら日常業務にも役立てていきたい。

平成 27 年度 近畿国立病院薬剤師会教育研修委員会主催
第 2 回 実務実習生合同成果発表会報告

宇多野病院 鈴木 晴久



平成 27 年 3 月 14 日 (土) 10:00 よりエル大阪(大阪府立労働センター)(708 号室【受付】、709 号室も使用、午後からは南館 10 階の 1023 号室を使用)にて、第 2 回目の近畿国立病院薬剤師会教育研修委員会主催の実務実習生合同成果発表会が開催された。今回も 1 回目と同様に関本裕美教育研修委員長(前:神戸医療センター 副薬剤科長、現:奈良医療センター 薬剤部長)の総合司会により山崎邦夫近畿国立病院薬剤師会会長(前:大阪南医療センター 薬剤科長、現:大阪医療センター 薬剤部長)からの開催挨拶に続いて、10:05 からの全体セッションでは、Ice break とプロダクトの説明が 20 分ほどおこなわれ、10:30 から午前中のワークショップが 708 号と 709 号の 2 会場で、8 グループ(4 課題)に分かれて、グループ討論(45 分)とスライドの作成(15 分)が行われた。

このワークショップでは、

- 課題 1 テーマ：模擬薬剤委員会(グループ 1 および 5)
「医薬品の採用、削除の検討」
- 課題 2 テーマ：模擬医薬品安全管理委員会(グループ 2 および 6)
「インシデント事例による医薬品の安全管理の検討」
- 課題 3 テーマ：模擬 I R B (グループ 3 および 7)
「治験のプロトコールと同意説明文書の記載事項の検討」
- 課題 4 テーマ：模擬臨床カンファレンス(グループ 4 および 8)
「症例提示による薬学的管理内容の検討」

グループセッションの結果発表は、グループ 1 からグループ 4 は 708 号室で、グループ 5 からグループ 8 は 709 号室でそれぞれ行われ活発な討論が行われた。

11:30 から 12:00 までは、708 号室、709 号室 2 会場に分かれて、全体セッションが行われた。(1 グループ 7 分【発表 4 分、討論 3 分】)午後からは 1023 号室へ会場を移動しお昼休憩に入った。

13:00 から 14:00 までは、ランチタイムミーティングということで、①山崎邦夫近畿国立

病院薬剤師会会長から「国立病院機構の紹介」②田川佳美薬剤師(南和歌山医療センター)から「国立病院機構に就職して」を③中澤誉薬剤師(奈良医療センター)から「国立病院機構 病院薬剤師 3年目を迎えるに当たって」という3つのテーマでそれぞれの立場から国立病院機構が紹介された。続いて、14:00からは実習生自己紹介及び施設単位発表 12施設 21課題(3期10施設 4期11施設 合計21課題)(1施設5分【発表4分、質疑応答1分】)で行われた。学生や大学関係者から活発な質疑応答が行われ、今回も予定時間を超過するほど盛況であった。



総評と閉会の挨拶を本田芳久近畿国立病院薬剤師会副会長(前:奈良医療センター 薬剤科長、現:大阪南医療センター 薬剤部長)より行われ、今回はランチタイムミーティングやIce breakといった新しい企画もあり前回以上に大盛況のうちに会は終了した。

平成 27 年度 新採用者コメディカル部門研修会に参加して

大阪医療センター 萬浪 綾乃

4月15日から17日までの3日間にわたり大阪医療センターで開催された、新採用者コメディカル部門の研修に参加させていただきました。本研修は、社会人としての基本スキルを身に着けると共に国立病院機構職員としての意識付けを図り、各所属部門で必要とされる基本的な知識等を習得し職業人としての意識を醸成することを目的とするもので、研修の内容は、部門別研修、事例研究、診療部門・看護部門・人事担当参事による講義、接遇研修やコミュニケーション能力を向上させるための研修など、多岐にわたるものでした。

1日目の部門別研修では、国立病院機構薬剤師の責務、薬剤師を取り巻く環境と医療の動向、医療安全対策、チーム医療についての講義の後、グループを組んでの症例検討を行いました。中でも、患者さんの服用薬、訴えや検査値から問題点を見つけ、解決策を見出すと共に、限られた時間の中で薬剤管理指導記録を完成させなければならなかった症例検討はとても実践的で、大変勉強になりました。最終的にはどのグループも1時間半程度あった制限時間を全て使い切りようやく記録を完成させることができたのですが、本来は15分程度で出来なければならないことだと実際現場で活躍しておられる先生方に言われ、新人一同、驚愕してしまいました。

2日目の班別討論では、規則や常識にとらわれすぎない柔軟な発想をすると共に、職種による考え方の違いを認識し理解することを目的とする班別討論を行いました。私の班は栄養士、言語聴覚士、児童指導員、放射線技師、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師、臨床工学技士で構成されており、その方々と、各々の業務内容の紹介や各専門分野の知識を生かし、一つの議題に対してブレインストーミングを行いました。他職種の方から薬剤師のイメージをお聞きしたところ、やはり『薬剤師は地下で調剤ばかりしている』というイメージが強かったです。業務内容紹介の際、今は病棟で業務を行う事も多いと伝えると大変驚かれました。

ブレインストーミングでは、コメディカルが患者さんのために何ができるかを考え議論した結果、コメディカルの強みはやはり、患者さんが医師や看護師の方になかなか言い出せなかった些細な悩みや不安など、ふとしたときにぼろりと吐露してしまった本音を聞ける、ということでした。この話題が上がった際、一番強く頷いたのは、退院するために患者さん自身が一番苦しいながらも必死に頑張らなければならない、リハビリに携わる理学療法士や言語聴覚士の方でした。他にも、小さくても良いからコメディカル各部門の相談室を設置してはどうかという案も上がりました。例えば、今世間でも話題になっている放射線や放射能のことをきちんと知りたければ放射線技師、薬のことをもっと詳しく聞きたいときは薬剤師が常駐している相談室へ行くなど、そうした場を設けることで、患者さんの疑問をより解決し、不安を取り除くことができるのではないだろうかと考えました。

3日目の接遇・コミュニケーションの講義では、スーツの着こなし方から始まり、名刺交

換、電話の取り次ぎ方、重役の方と車やエレベーターに乗る際の立ち位置など、これまできちんと学ぶ機会のなかった事を知ることができました。

各部門の方が行ってくださった講義の中で私が最も印象に残ったのは『医療従事者に期待すること』という内容の講義です。自分が今実際にやっていることが本当に相手のためになっているのだろうか、忙しさや慣れのせいで大切なことを見失っていないか、など、普段何気なく行っている行動や業務に関する事を、改めて考えさせられる内容でした。実際に、この講義を受けさせて頂いた後では自分の中で意識が一変するなど、大変心に残るものとなりました。

この3日間の研修を通して、社会人としてのマナーや医療人としての心構えを学ぶことができました。また、薬剤師だけでなく、他のコメディカルの方々とも意見交換の場や懇親会を設けて頂いたことで、研修時間に限らず、各々が普段疑問に思っていることを専門職の方に質問しに行くなど、親睦を深めることができました。

この研修で得たことを活かし、患者さんや他の医療従事者の方からも信頼される薬剤師になりたいと思います。

お忙しい中、ご指導ご鞭撻下さった先生方及び職員の皆様には、心よりお礼申し上げます。このような貴重な研修会に参加させて頂きありがとうございました。



「日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2015」に参加して

近畿中央胸部疾患センター 小川 智子

平成 27 年 3 月 14 日(土)、15 日(日)の両日、平安神宮の近くにある、みやこめッセ(京都産業会館)にて日本臨床腫瘍薬学会学術大会が開催され、私も参加させていただきましたのでご報告させていただきます。

第 3 回目となる本大会のメインテーマは「花開く 5 つの和～がんチーム医療の実践～」。患者、医師、看護師、病院薬剤師、薬局薬剤師の 5 つの輪がチーム医療により花開き、患者に「和み」をもたらすことを意味しています。がん薬物治療の基礎的なセミナーから、抗がん剤の末梢神経障害、腎障害など副作用に関するシンポジウム、抗がん剤の暴露対策、外来化学療法、薬薬連携などプログラムの内容は多岐にわたっていました。末梢神経障害のシンポジウムでは、抗がん剤による末梢神経障害の発症機序や治療薬を検討した研究の話題がありました。呼吸器専門の当院で働いているとパクリタキセルを使用する症例には毎日接する機会がありますが、オキサリプラチンなどの肺がん以外の抗がん剤を取り扱うことがほとんどないため、他の診療科の薬剤師の特性を勉強する良い機会となりました。

私は現在、肺がん病棟を担当し、支持・緩和療法チームにも所属しています。副作用対策や腎障害・肝障害患者に対する処方設計など薬剤管理への関与だけでなく、最近では在宅移行後も安心・安全な薬物療法を提供できるよう保険薬局との連携も進めています。本学会に参加することで、他施設におけるがん患者への薬剤師の関わり方や多方面からの薬学的アプローチの方法を学び、今後の医療チームの中で自分が出ることが、また薬剤師と



してしなくてはいけないことを再認識致しました。4 年目に入った今年、先輩に頼りすぎず、自分の力でチームに貢献できるようスキルを上げていきたいと考えています。



「第36回日本病院薬剤師会近畿学術大会」に参加して

大阪南医療センター 川上 智久

平成27年1月24日～25日に和歌山県民文化会館・和歌山東急イン・ホテル アバローム紀の国において第36回日本病院薬剤師会近畿学術大会が開催されました。今回私は「内視鏡下点墨法に用いる滅菌墨汁調製方法の検討」という演題でポスター発表をさせていただきました。

平成24年7月31日に日本病院薬剤師会より院内製剤の調製及び使用に関する指針が策定されています。当院では、院内製剤として内視鏡下点墨法用滅菌墨汁を調製していますが原料、調製方法に変更がないにも関わらず粘度が高くなる事例が起きました。結果的に従来使用していた墨汁が凝集した原因の特定はできませんでした。しかし検査科で光学顕微鏡を借り凝集した墨汁の性状の確認や、新たな点墨法用滅菌墨汁を探索や、新たに設定した点墨法用滅菌墨汁の安定性について調べるなど、先輩の先生方と試行錯誤し原因究明に努めました。

今回の検討にあたって院内製剤の安全性の担保という点において病院薬剤師に求められている責務は大きいと感じました。

自身のポスター発表以外でも他施設の発表、シンポジウムを聴講し最新の情報や取り組みなどを学びました。

その中でも特に、分子標的薬における皮疹マネジメントという皮膚科医師によるセミナーが印象に残っています。分子標的薬の中には高率に皮膚障害を引き起こす薬剤があり、早期の対応の重要性やステロイド外用薬の強さによる使用部位の使い分けを学びました。また日光・紫外線で皮膚症状が増悪しやすいため、日焼け止めを塗る事や、日頃から清潔に保ち保湿剤などで皮膚乾燥を防ぐ必要性など服薬指導に役立つ情報が多く大変勉強になりました。

全体を通し学会への発表は達成感を感じることができ充実したものとなりました。

今回の発表に関し多くの先生方にアドバイスをいただきました。厚く御礼申し上げます。今後ともご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



趣味のページ ～go for a walk～

紫香楽病院 内海 真和

今回趣味のページを担当させていただきます紫香楽病院の内海です。

私の趣味は読書、音楽鑑賞、散歩です。

今回はそのうち散歩について書かせて頂きます。

散歩コースは自宅が京都市内にあるためほぼ京都市内、月に2回程度天気のいい日に歩いています。

お気に入りの散歩コースは①桃山御陵前から明治天皇陵に向かう道と②蹴上から哲学の道に向かう道です。



写真は②の哲学の道付近にある狛犬ならぬ狛ねずみと狛うさぎです。

狛ねずみはその神社で祀られている神様を助けたとの伝承から、狛うさぎは子授け安産の象徴として奉納されたそうです。

他にも狛鷹や狛猿等さまざまな狛が祀られています。

6月になるとあじさいも見頃になってきますので、近くを通られた際は一度行って見てください。近くに美味しい和菓子屋やうどん屋もあつたりします。

さて次回のバトンは京都医療センター、竹之下 祥愛先生にお渡ししようと思っています。楽しみに待っています。どうぞよろしくお願ひします。



編集後記

- ♪ 新年度が始まり早くも2か月が経過しましたが、皆様体調は崩されていませんか。異動や採用になられた先生方は施設に十分馴染まれたでしょうか。
- ♪ 大阪都構想の是非を問う住民投票が5月17日に行われ、結果僅差で廃案となり大阪市長が政界引退を表明しました。投票率は関心が高いためか、11年の市長選を上回り66.83%だったそうです。日々の業務に追われていますが投票は民意を反映させる手段、少しでも政治に興味をもち参画していきたいですね。
- ♪ 5月中旬ということで、朝夕の寒暖差がなく過ごしやすくなってきましたが、これからは熱中症の対策や、食べ物の管理だけでなく、海や川での行楽時の事故にも十分注意しておきましょう。
- ♪ 4年前の東日本大震災に続きネパールでも大地震が発生しました。近畿地区もいつ起こるかわかりませんので他人事ではないですね。皆様、日頃から防災グッズの準備や避難場所等の確認はされていますか。
- ♪ 新年度最初の会誌です。今月号では提言、薬剤部紹介、薬剤師会講演報告、学会報告、新採用の先生の研修参加記、趣味のページなど、いつものように充実した読みごたえのある内容となっています。今月もぜひ最後までご熟読ください。

(N.O)

近畿国立病院薬剤師会ホームページ <http://www.kinki-snhp.jp/>

近畿国立病院薬剤師会会誌

第四十二号 平成27年5月発行

発行元 近畿国立病院薬剤師会事務局

大阪市中央区法円坂2-1-14

(独立行政法人国立病院機構大阪医療センター薬剤部内)

発行人 会長 山崎 邦夫 (大阪医療)

編集 広報担当理事 宮部 貴識 (大阪医療)

広報委員 本田 富得 (大阪南医療) 川端 一功 (東近江総合医療)

朴井 三矢 (大阪医療) 中西 彩子 (奈良医療)

小西 大輔 (大阪医療) 岩槻 瑠美 (南和歌山医療)

奥田 直之 (大阪医療) 田中 絵理 (宇多野)